



～理想の子育て秘伝の書～

班員 鈴木晴仁 西沢利那
黒木百花 田中青 柳田彩希

指導者 圖師崇人先生
アドバイザー 水永正憲様

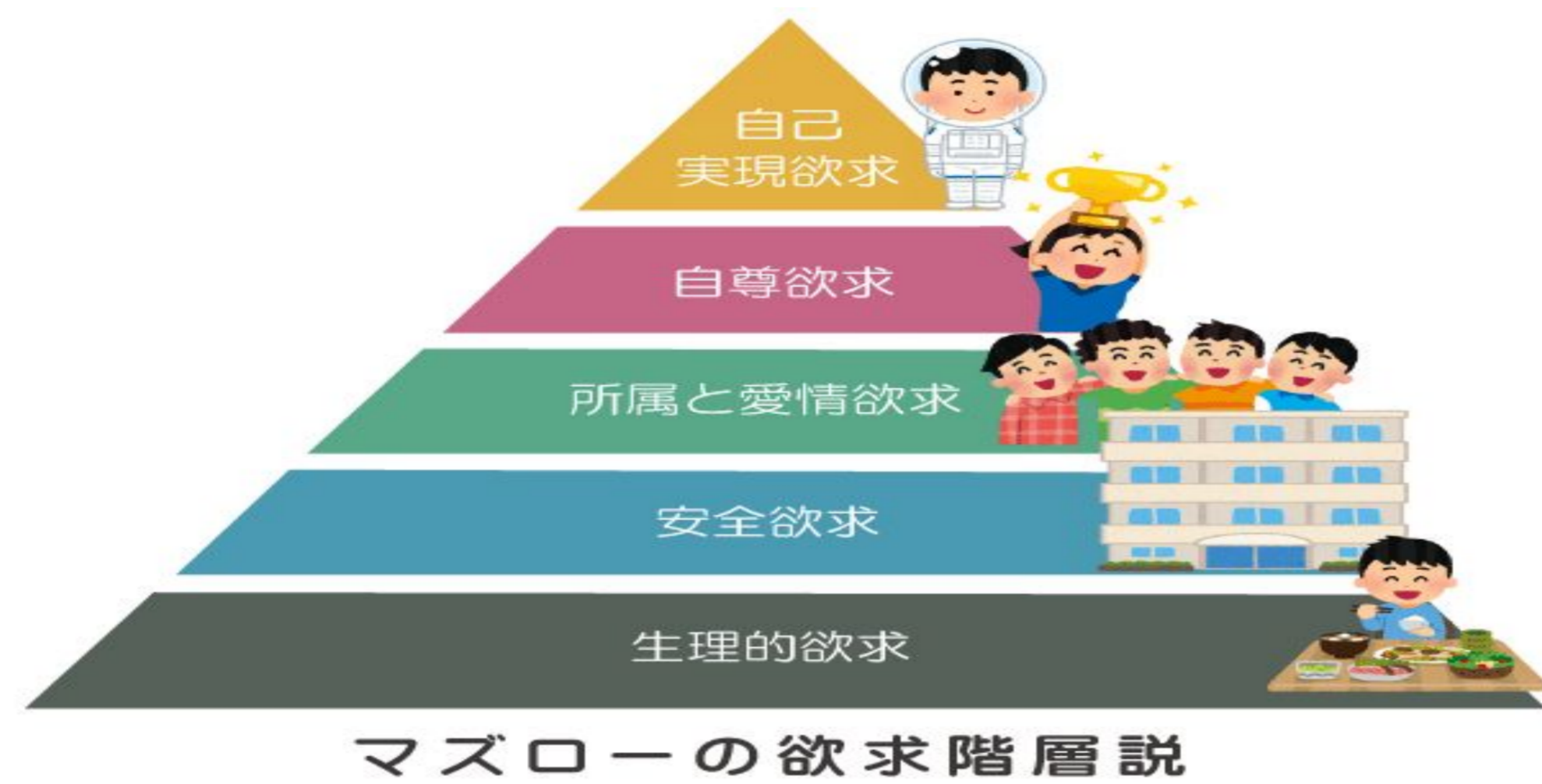
研究動機

SDGsを解決するためには教育が必要不可欠であると考えた私たちは、教育について研究していく中で、周囲の人間や環境が幼児期の成長に大きく関わることが分かった。現代には様々な教育に対する考え方があるが、理想の教育とは何かについて自分たちなりにまとめて、幼児教育の指針となる掟を作成したいと考えた。

先行研究

○マズローの欲求5段階説…

「人間は自己実現(理想の自分)に向かって絶えず成長する」と仮定し、自己実現に至るまでの欲求を5段階の階層として、理論化したもの。



仮説

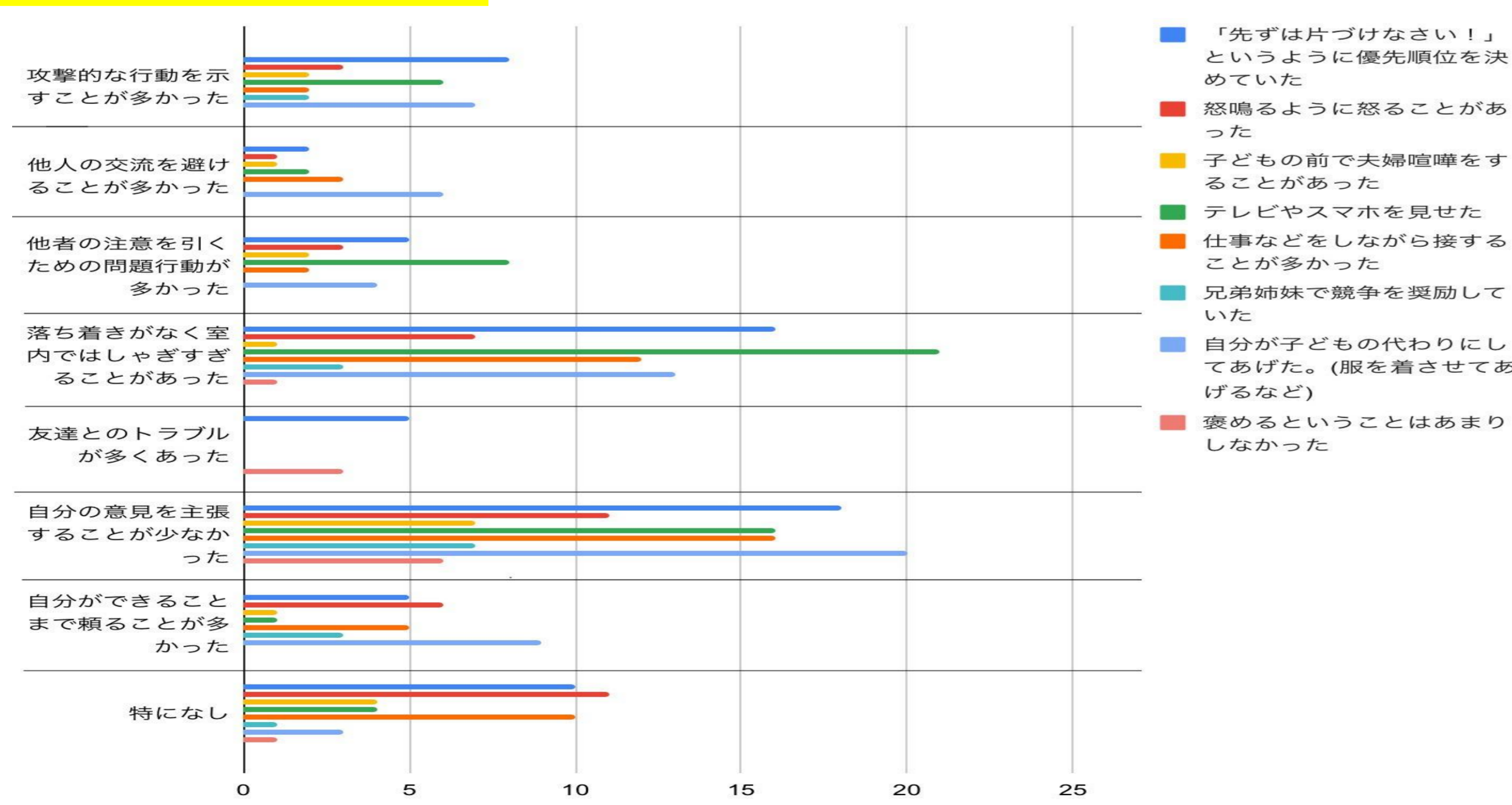
子どもが成長できたという定義を自己実現の達成とし、その土台となる欲求を満たしていくことこそが理想的な教育であると考えた。

研究方法

- ・わか葉幼稚園と西階幼稚園に訪問し、理想的な教育についてインタビュー
 - ・本校2年生を対象にアンケート(保護者49人を対象)
- 自己実現の土台である欲求を満たすために保護者として苦労したことを聞く



結果と考察



子育て期間の悩みについてアンケート(本校保護者対象)

着眼点①

「落ち着きがなく室内ではしゃぎすぎることがあった」と回答した人は「スマホやテレビを見せることが多かった」と回答した人が多い。

考えられる原因:テレビやスマホを見せている時間が長くなると、体を使って遊ぶということが短くなり、十分にエネルギーを発散させる機会が減っているから。

●どのように運動の欲求(生理的欲求)を満たす必要があるか。

わか葉幼稚園さんの話

スマホを見せる時間が多くなると運動する機会が減り、体力のない子どもが育ってしまう。子どもになるべくテレビやスマホを見せないように保護者と協力している。

中央教育審議会)親子で参加できるイベント(ラジオ体操)などや、親子でスポーツ活動を行うことが有効。このような行動によって、子どもの「外で体を動かす」というきっかけを作れる。

A:テレビ・スマホから離れ、外で一緒に体を動かす。

着眼点②

「自分の意見を主張することが少なかった」と答えた人は「自分が子どもの代わりにすることが多かった」と答えた人が多い。考えられる原因:保護者が子どもの代わりになんでもしてしまうことが、自己表現をする機会を奪ってしまっているから。

●どのように自己表現力をつけていけばいいか?

西階幼稚園さんの話

遊びを多く取り入れることによって、自分の興味を見つけることができ自分を表現する自己表現の土台を作れる。

子どもが遊んでいる時に褒めるとより子どもの自己表現力を高めることにつながる。

A:遊びを多く取り入れる。小さな成長に気づき、褒める。

結論

「好き」と思えることを追い求めれば、自己実現を達成できる。そのためには、「好き」を追い求められる環境が必要不可欠である。

- だから、
- ・子どもの代わりにやらざるべし!
 - ・遊びを通して子どもの「好き」を見つけるべし!
 - ・小さなことでも徹底的に褒めるべし!
 - ・ストレス発散には外で思いっきり遊ばせるべし!
 - ・テレビ、スマホは適度に正しく利用させるべし!

謝辞

本研究で教育についてお話していただいた、わか葉幼稚園と西階幼稚園の関係者の皆様、並びに本研究に助言をくださった水永正憲様、本校の先生方にこの場を借りて感謝申し上げます。

参考文献

中央教育審議会(2002年)『子どもの体力向上のための総合的な方策について(答申)』文部科学省 10月3日

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/021001.htm

(2022年)『マズローの欲求5段階説-子どものイライラは欲求不満のサイン! 抑えられない子どもの欲求とは?』親の学校プロジェクト

<https://www.oyagyosaitama.com/maslow-hierarchy/>